



「補助輪」をはずすとき

校長 山本 郁雄

さわやかな季節を迎えています。早いもので新学期がスタートしてから二か月が過ぎようとしています。

最近、自宅近所の公園で、自転車に乗る練習をしている親子を見かけ、娘が自転車の補助輪をはずした時のことを思い出しました。心配でなかなか手を離すことができないのですが、思い切って手を離し、補助輪なしで走る姿を見た時は、わが子の大きな成長を感じた瞬間でした。

学校生活にも、学年に応じてたくさん「補助輪」があります。特に、入学・進級して環境が新しくなった四月、五月は、その学年に応じた目標を立て、担任を中心に様々な「補助輪」を用意します。そして、その子に応じて必要な「補助輪」は残しながらも、それぞれの成長に合わせて、徐々に「補助輪」をはずしていくのです。

では、どのようなときに、補助輪をはずすことができるのでしょうか。以前、自転車販売店の方から、これができたら補助輪をはずしても大丈夫というポイントを聞いたことがあります。それは、次の四つです。

①両手できちんとブレーキをかけて止まれる。

- ②自分が行きたい方向に自力で行ける。
- ③ペダルを自分でこげる。
- ④補助輪をはずす意欲が本人にある。

学校生活の「補助輪」をはずす目安は、自転車販売店の方の言葉になぞらえれば、

- ①困ったときに立ち止まって、自分から先生や友達に確かめることができる。
- ②めあてをもち、その達成に向けて努力できる。
- ③自分の力で取り組むことができる。
- ④課題に進んで取り組むことができる。

ということになります。

「補助輪」をはずすということは、自分の力でできるようになったことが増えたという証です。その時子どもたちは、きっと達成感や満足感でいっぱいだと思います。これからの学校生活の中で、一つでも多くの「補助輪」をはずした子どもたちの姿を増やし、達成感や満足感をいっぱい味わってもらえるよう、活動を進めていきます。

さあ、もうすぐ六月。少しずつ「補助輪」をはずす準備を始めます。